資料５

こども家庭庁　第 64 回「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」資料

令和７年５月 20 日
板橋区立高島第二小学校　校長　桝田　佳江

ICTeacher’s 学校現場実践報告

１．学校現場実践に至るまでの経緯

・本委員として 2023 年に高校生 ICT Conference 最終発表を拝聴する。とてもよい提案だったので「小学校で実際にやってみないか」と打診する。長崎県の高等学校より「やってみたい」との連絡をいただき、何度かメールのやり取りをしたが、実現には至らなかった。

・翌 2024 年の高校生 ICT Conference 最終発表も素晴らしかったため、前年度同様「小学校で実際にやってみないか」と打診する。学校現場に在籍する一委員として「こうあるべき」と提案したものを実際にやってみることでその内容が更にブラッシュアップされると考えたため提案した。本年度は「高校生 ICT　Conference 実行委員会」関係団体の代表の皆様が間に入ってくださったおかげで、実践が実現した。

２．学校現場の一委員として尽力したこと

・本校（小学校）を実証実験校として提供するが、どの学年での実践することがより効果的かを検証。

→実際に第６学年の３クラスが「やってほしい」と手を挙げたが、高校生が授業をすることが初めてであるため、学年全体（８５名）を対象とした授業内容をイメージすることが不可能との回答。よって第５学年の学年主任の学級で実践することとした。

※ここでのポイント・・・小学生は６歳から１２歳までの集団。発達段階に応じたカリキュラムが必要で、どの年齢をターゲットとした提案をするのか、今後のカンファレンスの中に生かしてほしい。

・中学校での実証実験校を探す。

→テーマから判断すると小学生よりも中学生対象の方がより効果的なのではないかと判断し、小中一貫教育連携校に打診し、快諾。令和７年４月に実現した。

３．実践報告

（１）小学校編

日時・場所　　令和７年２月１５日（土）　板橋区立舟渡小学校　図書室
※土曜授業プラン学校公開で実践。保護者の方にも参観いただきました。

授業者　　高校生 ICT Conference2024 最終報告者＋１名の４名

対　象　　第５学年（３クラス中１クラスを対象）

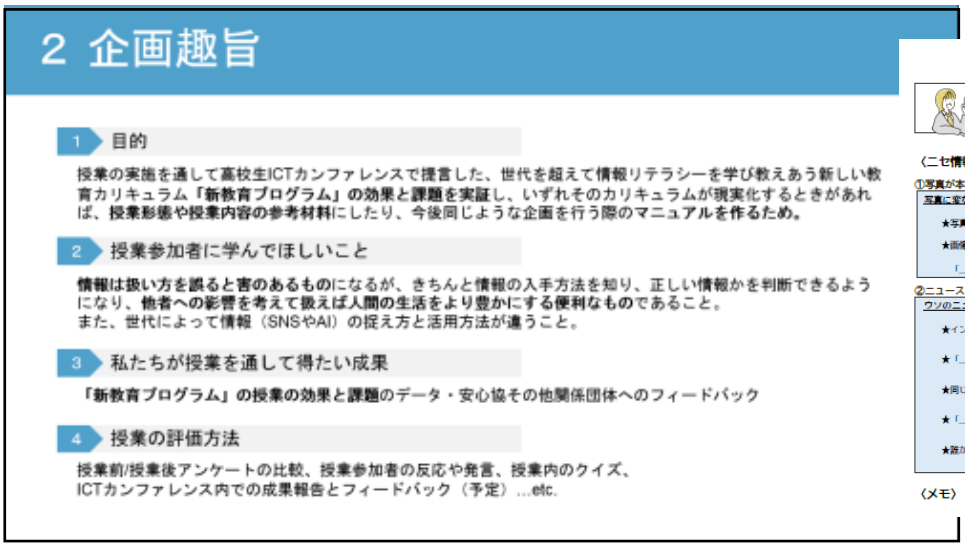
テーマ　　ICTeacher’s　～なんとなく AI を使っていませんか～

内　容　　①自己紹介　　②絵伝言ゲーム
③生成 AI の基本　　④ニセ情報〇×クイズ
⑤ニセ情報の見分け方　⑥まとめ

学習形態　　しっかりと教えたいことは電子黒板を使って全体共有。その後、ワークショップは高校生が分かれ、４グループで実施。各グループともにタブレットを囲んでクイズをしたり問題を解いたりしながら生成 AI の知識習得にあたる。

準備教材　　①企画書　→　児童の実態を踏まえ、時間配分などを綿密に打ち合わせる。
②企画書に基づいてオンライン会議　→４名が毎回各自の作業分担を決め、準備。
１週間に１度程度、進捗チェックを行う。
③授業用スライド
④児童用授業プリント　　⑤授業前、授業後のアンケート

高校生の思い　　企画書の１ページをご紹介　　↓児童用授業プリント



2 企画趣旨

1 目的

授業の実施を通して高校生ICTカンファレンスで提言した、世代を超えて情報リテラシーを学び教えあう新しい教育カリキュラム「新教育プログラム」の効果と課題を実証し、いずれそのカリキュラムが現実化するときがあれば、授業形態や授業内容の参考材料にしたり、今後同じような企画を行う際のマニュアルを作るため。

2 授業参加者に学んでほしいこと

情報は扱い方を誤ると害のあるものになるが、きちんと情報の入手方法を知り、正しい情報かを判断できるようになり、他者への影響を考えて扱えば人間の生活をより豊かにする便利なものであること。
また、世代によって情報（SNSやAI）の捉え方と活用方法が違うこと。

3 私たちが授業を通して得たい成果

「新教育プログラム」の授業の効果と課題のデータ・安心協その他関係団体へのフィードバック

4 授業の評価方法

授業前/授業後アンケートの比較、授業参加者の反応や発言、授業内のクイズ、
ICTカンファレンス内での成果報告とフィードバック（予定）…etc.

2025年2月15日

ICTeacher's
～なんとなくAIを使っていませんか～

〈ニセ情報の見つけ方　ポイント〉

①写真が本物かどうか調べるには？

写真に変なところがないかを確にん！

★写真の細かいところの「＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿」をさがそう

★画像を見たときは、一度止まって考えてみましょう

「＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿」とうたがって見ることが大事

②ニュースが本物かどうか調べるには？

ウソのニュースでも、生成AIが関わっていると、「本当っぽく」なって信じ込みやすい！

★インターネットでトピックを「＿＿＿＿＿＿＿＿」してみる

★「＿＿＿＿＿＿＿＿」を調べてみる

★同じことについて書いている「＿＿＿＿＿＿＿＿」も見てみる

★「＿＿＿＿」で調べてみる

★誰かに「＿＿＿＿＿＿＿＿」

〈メモ〉

アンケートより　・生成 AI に限らず、情報の信ぴょう性には気を遣う。
（一部紹介）　・誤解を招く情報を出さないようにしたいです。
・事実がどうなっているのかを発信元にも考えながら、ファクトチェックを行っていく必要がある。そのためにも複数の情報を参照していく必要がある。
・まさしく情報リテラシーが重要。たくさんの情報があふれる中で、まずはその情報を疑うこと、そして正しく情報を選び抜く、判断する能力が今後重要になってくると思いました。
・興味深いです。各学校に導入してほしいです。親の教育も必要かと思います。（保護者）

（２）中学校編

日時・場所　令和７年４月２４日（土）　板橋区立志村第五中学校　体育館
授業者　高校生 ICT Conference 経験者（大学生）１名
対　象　第７～９学年（全校生徒対象のセーフティ教室の位置付け）
テーマ　充実した生活を送るためにスマホ・ネットをどう使おう？
まとめ　ネットに使われるな　ネットを使いこなせ！

アンケートより　・スマートフォンの良い使い方を講師（大学生）の実体験をもとに知れて良かったです。
（一部紹介）　・勉強にも活用してみたいと思います。
・危ないから使わないのではなくて上手に使うというのが大切だと気付いた。
・自分は AI などには疎かったので今回の授業のおかげでネットについての詳しい情報の他に生成 AI を使ってみたくなりました。
・改めてインターネット上の人と合う怖さ、依存してしまう恐ろしさについて知ることができた。自分も長時間使うことがあり、対策をし始めないといけないと思っていた頃なので今回のセーフティ教室をきっかけに家族と話してみようと思った。
・今の子どもたちに合う令和の SNS セーフティ教室の授業で、とても素晴らしかった。（保護者）

４．今後に向けて（まとめ）

・高校生の素晴らしい提言を実際に小・中学校で授業実践できたことは大きな一歩と考える。
・今回の実践を踏まえ、成果と課題を授業者自身（高校生や大学生）が報告する場が「高校生 ICT　Conference 最終報告会」に組み込まれるとよい。（例：前年度の成果報告など）
・今回実践したカリキュラムをベースとし、少しずつ横展開できる仕組みが作れるとよい。
・生成 AI などのテクノロジーに加え、外国籍児童への ICT 活用など、学校現場が直面している課題を「高校生 ICT　Conference」のテーマとして取り上げてほしい。